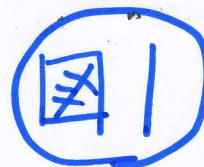


20世紀メディア研究所 占領期メディアデータベース化プロジェクト委員会
占領期新聞・雑誌情報データベース
 The Database of Newspapers and Magazines Published during the Post-war Occupation Period from 1945 to 1949



管理者専用

結果一覧

第 1

検索の結果、11件の記事が見つかりました。
 詳細結果をご覧になるには、ご希望の記事タイトルをクリックしてください。

検索結果 : 11

◀ 前の50件		次の50件 ▶						
分類	記事タイトル	執筆者	掲載誌名	発行年月	発行者	分類	請求番号	検閲
✓ 雑誌	垂米利加の思出	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1945-12-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
p.2 ✓ 雑誌	勲章	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-01-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
p.4 ✓ 雑誌	冬日の窓	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-02-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	戦災 [罹災] 日録 : 昭和二十年の日記	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-03-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	罹災日録(二) : 昭和二十年の日記	永井荷風	新生	1946-04-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	罹災日録(三) : 昭和二十年の日記	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-05-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	罹災日録(四)	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-06-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	仮寝の夢	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-07-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	昭和十六年の日記 : 昭和辛巳歳荷風散人年六十三 : 日誌につきて	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-08-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
✓ 雑誌	昭和十六年の日記【その二】	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-09-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	0
② ✓ 雑誌	昭和十六年の日記【その三】	永井荷風	新生 = VITA NOVA	1946-11-01	新生社[発行]	ZW01	S1594	1
分類	記事タイトル	執筆者	掲載誌名	発行年月	発行者	分類	請求番号	検閲
雑誌	踊子	永井荷風	展望	1946-01-01	筑摩書房[発行]	ZW01	T325	0
雑誌	絶望	永井荷風	展望	1946-04-01	筑摩書房[発行]	ZW01	T325	0
雑誌	問はずがたり	永井荷風	展望	1946-07-01	筑摩書房[発行]	ZW01	T325	1

次の50件 ▶

◀ 前の50件

2
図

此為高井亦

小談

魚家此在

持女亦採

「聞く存じません。亞米利加人のオツクス見たりやうな處へお代りになつたるやうです。
聞く難道に……。」

ら、僕は東京戦後の状況やら、雪江の事やら、駒場の家的事やらを尋ねた。

「暫くお尋ねしましたが、お變りはないやうです。」

「まだ丸の内へ通つてゐますか知り。戦争がすめばもうそんな必要はないんでせう。」

「能く存じません。亞米利加人のオフィス見たやうな處へお代りになつたさうです。極く最近に……。」

「さうですか。」

「もう日本人なんぞにはつき合ひたくないと思つて居るもんですから、つい、その……私も遠慮して居りました。いや、はや。」

さびし氣な口元の微笑と、滞りがちな語調とで、僕は春山と雪江との間には多少の波瀾があつたものと推察し、

「さうですか。あの児は世間で云ふ型にはまつた無軌道女の方ですからな。仕様がなひです。」

「全くです。さう云つては悪いですが全く無軌道です。」

~~春山はせめての心やりに、それとなく当てこすりを言つたりらしく、丸の内へ通勤する女事務員の中には進駐軍の兵卒と日比谷公園で出会うものも少くない。銀座に再興したカフェーの女給やダンサーは日本人の客には見向きもしないやうになつた事を語り、~~

~~「然し無理ありません。米兵のお相手になつてゐれば、お金ばかりちやありません。輕草でもチヨコレイトでも欲しいものは不自由しませんから……」~~

事例⑤

「さうですか。」

「もう日本人なんぞにはつき合ひたくないと思つて居るもんですから、つい、その……私も遠慮して居りました。いや、はや。」

さびし氣な口元の微笑と滞りがちな語調とで僕は春山と雪江との間には多少の波瀾があつたものと推察し、

「さうですか。あの児は世間で云ふ型にはまつた無軌道女の方ですからな。仕様がなひです。」

「全くです。さう云つては悪いですが全く無軌道です。」

春山はせめての心やりに、それとなく当てこすりを言つたりらしく、丸の内へ通勤する女事務員の中には進駐軍の兵卒と日比谷公園で出会うものも少くない。銀座に再興したカフェーの女給やダンサーは日本人の客には見向きもしないやうになつた事を語り、

「然し無理ありません。米兵のお相手になつてゐれば、お金ばかりちやありません。輕草でもチヨコレイトでも欲しいものは不自由しませんから……」

担当の検閲者が雑誌と書籍では変わるので、削除されない可能性がある、と荷風は期待したのだらうか。雑誌掲載の際の検閲者は日本人あるいは日系人と思われる「Hara」であつた。

アメリカ兵と日本女性の性的な付き合ひを示す風俗現象、それは當時のCCDの検閲用語ではFraternization(フラタニゼーション)、交際と呼ばれ、その描写は検閲者から厳しい視線が注がれる対象となつていた。それを見逃すと検閲者自身が上級の監督官にとがめられるようになっていた。まさに「問はずがたり」が雑誌から単行本になるわずか1カ月間に、ことフラタニゼーション記述に関しては、当局の検閲姿勢が

写真5-6 永井荷風「問はずがたり」掲載の「展望」(フランケンゲン研究所蔵)

読書摩訶

展望

七月號



DELETE

3

「問はずがたり」雑誌「展望」

扶桑社版ゲラ